

きのこ展会場MAP

園内の「きのこ出現ポイント」を
回ってみよう!

マップ内の丸数字は、例年、裏面写真
のキノコが生えていた場所です。
中央広場の掲示板「ただいま生えて
いるきのこ」と併せてご覧ください。
※マップ内のきのこは、常に生えている
わけではありません。

研修展示館

- 1F 日本のきのこ学を
つくってきた巨人たち
- 2F きのことアートの世界
- 3F きのこと画コンテスト
「きのこコン」応募作品展示
〈ワークショップ〉
きのこ版画でポストカードを
つくろう



中央広場(テント)

野生きのこ・
栽培きのこの展示

常設展示 「植物園のきのこの仲間」

2016年にオープン!四季を通し
ていろいろな「きのこの仲間」を
観察できるコーナーです。

中央広場周辺

休憩スペース・飲食店
マッシュルームつかみどり
[有料・日曜日のみ]

教育棟

きのこ書籍・グッズ販売

植物園からのお願い



とらない!



植栽区への
立入禁止



ハチに注意



1 エリマキツチグリ

2 サンコタケ

3 アイバシロハツ

4 クサウラベニタケ

5 タマゴタケ

きのこQ&A

きのこやその他の菌類について、よく挙げられる質問をまとめました。写真のきのこは、表面の会場マップの数字と照らし合わせてご覧ください。

Q1

展示されているきのこはどこから採ってきたの？

ほとんどが身近な場所からです。大半は植物園から半径10キロ圏内。植物園を舞台にした大規模なきのこ調査も進行中です。その他にも日本全国の協力者から、たくさんのきのこを送っていただきました。⇒詳しくは「中央広場(テント)」で！

Q2

毒きのこはさわっても大丈夫？

大丈夫です。世界で唯一「カエントケ」というきのこだけは、さわるだけで皮膚がかぶれることが知られていますが、その他のきのこは猛毒菌を含め、さわるだけでは全く問題ありません。ただし、いつもはどんどんさわってもらう展示コーナーとなっていますが、**今年も新型コロナ拡大防止のために、展示場のきのこにさわるとはご遠慮ください。** ⇒詳しくは「中央広場(テント)」で！

Q3

実際に生えている状態のきのこは見れないの？

筑波実験植物園には年間を通して多様なきのこが発生します。どんな時期でも植物園を一周すれば、軽く30種を超えるきのこを見ることができましょう。園内全体がみどころですが、特におススメなのは「冷温帯落葉広葉樹林帯(ブナ林)」。タイミングが良ければ大量のタマゴタケを見ることができます。中央広場掲示板の「きのこマップ」に書かれた情報も見逃さないで！ ⇒詳しくは植物園内で！

Q4

きのこのアート展示もあるって本当？

はい。「きのこコン(きのこ画コンテスト)」応募作品展では、入選作品だけでなく、多数の力作が展示されています。この中から来年のきのこ展のポスターデザインが選ばれるかも!? また、きのこを生き生きと表現した木版画作品と植物園に生えるきのこを描いた繊細な水彩画作品など、多彩な「きのこアート」作品がみなさんを待っています！ ⇒詳しくは「研修展示館2Fおよび3F」で！

Q5

日本の菌学者と言ったら南方熊楠でしょ？

もちろん南方熊楠は偉大な学者です。きのこについても多数の記録や標本を残しています。しかし、熊楠が一番興味を持っていた生物は変形菌(粘菌)で、実はきのこやカビが含まれる菌類とは全く別の生き物なのです。今回の展示では南方熊楠についても紹介しますが、その他にも白井光太郎、安田篤、朝比奈泰彦、川村清一など、合計10名以上の偉大な菌学者を紹介します。みなさんどの菌学者の名前を知っているでしょうか？ ⇒詳しくは「研修展示館1F」で！

Q6

なんで一番大きく取り上げられている菌学者が池田良幸なの？

今回紹介するほとんどの菌学者は江戸・明治～大正生まれなので、その中では池田良幸は比較的最近の研究者と言えます。池田良幸氏は「北陸のきのこ図鑑」などを出版後、2021年に亡くなりました。実は国立科学博物館には、生前の池田先生から寄贈いただいた約7000点のきのこ標本が保管され、研究に活用されているのです。この度、ご遺族から池田標本に関連する観察記録、スケッチ、写真その他の遺品をさらにご寄贈いただきました。今回の展示では、それらの資料を紹介しながら池田良幸およびその他菌学者の足跡をたどります。 ⇒詳しくは「研修展示館1F」で！

6 マントカラカサタケ

7 ノウタケ

8 フクロツルタケ

9 アシボソノポリリュウタケ

10 コフキサルノコシカケ

